

地域計画の策定に向けた取組事例

JA等の関係機関との協力体制の下、役割を分担					福岡県飯塚市
認定農業者等数	89 経営体	農地面積	2,360 ha	主な農畜産物	米、畜産(肥育)など
地域の特徴・課題			取組概要		
福岡県のほぼ中央部で盆地に位置するため、夏冬と昼夜の気温差が激しく内陸性気候の特徴を有している。基幹作物である水稻をはじめとして、麦や大豆を含めた土地利用型の農業が主体であるが、土地利用型農業経営の育成という面では不十分であり、既存の地域農業の組織についても高齢化が進んでいるため、新規就農者や新たな地域農業組織の育成、担い手への集積が課題である。			協議の場では、集落営農組合の構成員や生産組合長、農業委員といった関係者25名が参加。冒頭に、地域計画策定の趣旨を説明し、概ね10年後の地域の農業や農地の在り方について協議した。資料に用いた地図は農地バンク(福岡県農業振興推進機構)に協力いただき農業総合地理情報システムを利用。地図の内容はJAふくおか嘉穂が実施する次世代総点検運動のアンケート結果を共有いただき、整理した。		
					
関係機関との協力体制			今後の予定		
飯塚市、飯塚市農業委員会、JAふくおか嘉穂、飯塚普及指導センター、福岡県農業振興推進機構、飯塚農林事務所で連絡協議会を開催し、地域計画策定に向けた意見交換及び情報共有を月に一度行っている。また、JAふくおか嘉穂管内の市町(飯塚市、嘉麻市、桂川町)との間で開催している農業施策連絡会議を通じて、定期的に情報共有を行っている。			11月に鎮西地区における協議の場を校区単位でまとめている6地区分をまとめて開催予定。利点として地区数の削減ができ、必要に応じて隣接する行政区の関係者が話に加わることができる。今回の結果に応じて、市内他地域の協議に適用していく予定。 (※本市の地区設定数 61地区)		
					